

アスペクト・概念形成からの多元的一性

田村 高幸 (Takayuki Tamura)

千葉大学

各自のアスペクト・概念形成が如何になされているかに注目することで、当該のアスペクト・概念形成を行うことを可能にする個別のリアリティの明晰化する道筋が見えてくる。このプロセスを明晰にしていく際に、重要なステップとなるのが、それらの分析プロセスにおける「言葉・物語」の「受容・表現」を担保する知識システムの在り方である。「～ねばならぬ」を基とした知識システムから脱し、「～しうる」を基とした知識システムへの移行が重要となる。そして、この「～しうる」を基とした知識システムこそ、各自がお互いにリアリティを受け止め合い、他者のリアリティ表現から各自のリアリティを豊かにするものを見出しあい、活用していき、結果として、各自のリアリティが連帯することを生み出し、各自からなるコミュニティをも豊かなものとしていくという、多元的一性をコミュニティに実現しうるものとなることについて論じる。